

加美町近代化遺産活用に関する研究

—宮城県近代化遺産の活用研究①—

永松 栄

[論文]

加美町近代化遺産活用に関する研究

—宮城県近代化遺産の活用研究①—

Study for Utility of Industrial Heritages in Kami-town
Study for Utility of Industrial Heritages in Miyagi-prefecture /no.1

永松 栄^{*1}

Sakae NAGAMATSU

*1 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科

Abstract

Planning and design issues for Industrial heritage in Kami-town are below.

1. Reserving authenticity of Industrial heritages in ensuring maintenance works. 2. Questing the design of Industrial heritage as media to send stories of modernizing in region. 3. Considering usage of Industrial heritage as regional symbol with high visibility as Tanaka brewing shops and Nakaniida Exchange Center.

Issues for population to exchange and to study Industrial heritages in Kami-town are below.

1. Ensure learning opportunities / Exhibition of Industrial heritages. 2. Pick up mechanism to share property information.
3. Local organization needed to reduce risk of demolition of industrial heritage

Information Dissemination issues for Industrial Heritages in Kami-town are below.

1. Media: Sign system, Guide book, Map, Website. 2. Contents: Modernization of transport, Spread education, Year 1902 fire and reconstruction, Brewery development in Nakaniida on Taisho Era, Kadosawa power plants and power projects.

キーワード：近代化遺産，加美町，利用，説明，信正性，ランドマーク

Key words： industrial heritage, Kami-town, utility, interpretation, authenticity, landmark

1. はじめに

1.1 研究の目的

本研究は近代化遺産の数の多さ，種類の多さ，定住地との密接な関係性などに着目し，近代化遺産をまちづくりに利用するにはどうすべきかを導きだそうとしている。

1.2 研究の構成と研究方法

第1段階として，加美町域の近代化遺産をまちづくりの視点で評価する。第2段階として近代化遺産写真展を地元で行い，展示会場でアンケートを行い近代化遺産に関する住民意識を確認する。第3段階として，現地調査結果とアンケート調査結果を踏まえながら，町史等から近代化遺産を説明（Interpretation）するための史実を抽出する。第4段階として，プランニングと

デザインの課題、住民・関係者の学習・交流の課題、情報発信の課題を検討する。

1.3 宮城県近代化遺産総合調査のレビュー

宮城県教育委員会は、近代化遺産の実情を把握し、保存措置検討を行うための基礎資料作成を目的として平成12年度と13年度に宮城県近代化遺産総合調査(以下、県調査と略記)を実施した。

加美町域内近代化遺産については、旧中新田町12件、旧小野田町5件、旧宮崎町2件の合計19件のデータが記載されている(文献8 p.150)。大分類内訳は、産業に関するもの5件、交通・通信に関するもの1件、土木に関するもの4件、その他9件である。この内、土木(電力・ガス)分類の門沢発電所水路(水路橋)が重要遺構に取り上げられ、説明がなされている(文献8 p.77)。

1.4 加美町のプロフィール

中新田町、小野田町、宮崎町が2003年(平成15)に合併し、加美町となった。同町は宮城県北西部北西部に位置し、東西約32km、南北約27km、面積約461km²の町域を有する。平成17年国勢調査による人口は27,212で、28%が65歳以上となっている。平成2年人口30,184から15年間で約1割減少している。

2. 物的調査の概要と結果

2.1 調査対象物件の確定

2.1.1 確定方法

県調査の一次調査対象19件から、下記①の方法により導き出した滅失物件と所在地不明物件を除き、下記②③の方法で導き出した新規調査物件を加えた物件群を調査対象とする。

- ①県調査の1次調査対象について現地確認を試み、「存在確認」「滅失確認」「所在不明」の3つの仕訳を行う。
- ②旧中新田町中心市街地の街並みが明らかに戦前の街並みの特徴を残していることから、十日市と西町を中心に戦前の建物と思われるものを検出し、物件関係者に竣工時期を問い合わせる。

- ③県調査で重要遺構に取り上げられた門沢発電所水路

(水路橋)に関する門沢発電所水圧管路について、更新されていてオリジナルな部分が無いが、ランドマークとしての再現性があるかどうかについて、町史等から当時の写真を探して確認する。

2.1.2 確定結果

上記①の調査より、旧料理屋(滅失)、鹿島橋(滅失)、上川原堰(所在不明)、旧小野田村信用販賣購買利用組合第二倉庫(所在不明)の4件を除き、上記②③の調査より田中酒造店、中勇酒造店、山和酒造店、鈴木醤油店、鈴勘商店工場、門沢発電所水圧管路の6件を新規に加えた(表1 参照)。

門沢発電所水圧管路はオリジナルな部分が無いが、1919年(T8)から1923年(T12)の間に撮影されたと推測できる鳴瀬川水電門沢発電所の写真(図1 参照)と現状写真(図2 参照)の比較より、当時の姿を再現する媒体となっていることが明らかになったので調査対象に加えることとした。また、他の新規追加物件については、竣工時期が明治時代から戦前の期間にあることから調査対象に加えることとした。その結果、調査対象件数は21件となった。

また、県調査で旧中新田営林署とされる建物が、町役場職員の指摘から、当初、診療所として建設されその後、営林署に転用されたことが判明したので名称を診療所(旧中新田営林署)と変更した。

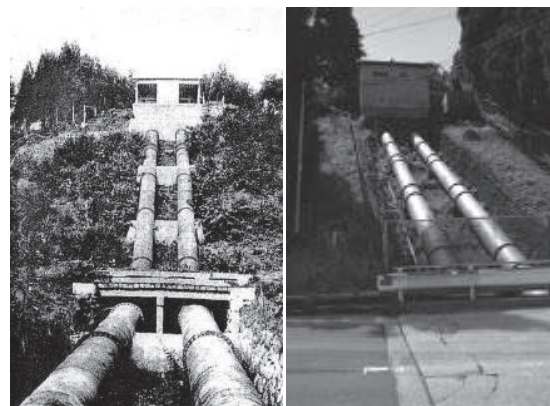


図-1 鳴瀬川水電気門沢発電所(出典:文献4 p.244)

図-2 東北電力門沢発電所(2009年筆者撮影)

表-1 調査対象の近代化遺産分類・年代別件数

分類		竣工時期			小計	合計
		明治	大正	昭和		
産業	農業			1	1	6
	醸造業	3			3	
	商業・サービス	1			1	
	造船業・工業	1			1	
土木	電力・ガス		4		4	5
	河川・河岸			1	1	
その他	教育施設			3	3	10
	宗教施設			1	1	
	医療施設	1		5	5	
	住宅等	1			1	
合計		7	4	10	21	21

表-2 近代化遺産分類・現利用目的別件数

分類		利用目的			小計	合計
		現役	用途 転換	低未 利用		
産業	農業	1			1	6
	醸造業	3			3	
	商業・サービス	1			1	
	造船業・工業	1			1	
土木	電力・ガス	4			4	5
	河川・河岸	1			1	
その他	教育施設	1	2		3	10
	宗教施設	1			1	
	医療施設	3	1	1	5	
	住宅等			1	1	
合計		16	3	2	21	21

表-3 近代化遺産分類・現利用目的別件数

分類		工事の外観への影響			小計	合計
		影響 少ない	従前 形状 維持	付加 要素 多い		
産業	農業			1	1	6
	醸造業		3		5	
	商業・サービス		1		1	
	造船業・工業		1		1	
土木	電力・ガス	3	1		4	5
	河川・河岸	1			1	
その他	教育施設		2	1	3	10
	宗教施設		1		1	
	医療施設		5		5	
	住宅等		1		1	
合計		4	15	2	21	21

2.2 利用目的の目視調査

2.2.1 調査方法

21 件の調査対象の利用目的について、「現役利用」、

「用途転換利用」、「低未利用」の 3 つに仕訳する。

2.2.2 調査結果

利用目的については、21 件の内 16 件が当初の利用目的のまま現役利用されている。また、3 件の公共公益施設が用途転換しながら使われている。2 件の住宅と医療施設については、老朽化が進んでおり、物置のような利用と推測される。(表-2 参照)

2.3 信正性(Authenticity)の目視調査

2.3.2 調査方法

これまでに加えられた再生工事の外観への影響について「外見上、目立った再生工事の跡が見られず信正性が高いもの」「外観から当初形状に即した維持保全がなされているもの」、「外観から付加的要素の多い再生工事が見られるもの」、の 3 つに仕訳を行う。

2.3.2 調査結果

信正性が高い物件は、門沢発電所水路(水道橋)、同水槽、同余水吐と別所砂防堰で、何れも土木系物件である。付加的要素の多いのは、旧鳴瀬小学校と旧小野田村信用販売購買利用組合第一倉庫で、旧鳴瀬小学校は中新田交流センターに転用するために大掛かりな再生工事を行っている。その他のものは、維持保全のための工事を受けながらも、概ね当初形状の枠の中にある。(表-3 参照)

2.4 ランドマーク的外観特性等の目視調査

2.4.1 調査の方法

物件のランドマーク的外観特性等について、「視認性が高く形態的特徴が明確でランドマークになっているもの、又はランドマークたりえるもの」「物件として希少性が高いが立地条件から視認性が低いもの」「物件の機能からランドマーク化に向かないもの」の 3 つに仕分けする。ここでのランドマークは街並みやランドスケープの中での文字通り目印の意味で使っているので、目印であるか否かは物件と周辺環境との相関関係から決めることとする。

2.4.2 調査結果

ランドマークになっているもの、又はランドマーク

たりえるものは 21 件中 13 件である。「物件として希少性が高いが立地条件から視認性が低い」に該当するのは門沢発電所水路(水路橋)である。この物件は県調査で重要遺構に取り上げられ鑑賞に値するものなので、策がほしいところである。医療施設 5 件、住宅 1 件、門沢発電所関連の 2 物件(余水吐と水槽)はそれぞれの機能からランドマークには向かないと考えられる。

表-4 近代化遺産分類・ランドマーク的外観特性別件数

分類	ランドマーク的外観特性			小計	合計
	ランドマークたりえる	ランドマークに適するが視認性確保に課題	機能上ランドマーク化に不的		
産業	農業	1		1	6
	醸造業	3		3	
	商業・サービス	1		1	
	造船業・工業	1		1	
土木	電力・ガス	1	1	2	5
	河川・河岸	1		1	
その他	教育施設	3		3	10
	宗教施設	1		1	
	医療施設	1	4	5	
	住宅等		1	1	
合計		13	1	7	21



図-3 近代化遺産分布図（地図はグーグルマップ）

2.5 小 括

①近代化遺産 2 件の滅失を確認し、利用価値のある近代化遺産 6 件を追加した。

② 21 件中 16 件が当初目的で現役利用されていることは好ましいことである。しかし、こうした物件の一定数と低未利用の 2 件については取り壊しの危機が存在する。

③土木系近代化遺産は建築系のものに比べてライフサイクルが長いので変化が緩慢となるが、補強工事等が加わる場合は、頻繁にはないが信正性を失う危険性もあることがある。旧鳴瀬小学校については、利用者に対して従前用途に関する情報提供がほしい。

④門沢発電所施設はエネルギーの近代化を示す一連の近代化遺産群であるので、加美町にとって大事な文化財である。しかし、保安上の問題もあるので慎重に活用方法を検討する必要がある。

3 近代化遺産に関する啓発と市民意識

3.1 写真展の実施概要

物的調査が概ね終了した段階で、市民啓発を狙った加美町近代化遺産写真展を実行した。A2 サイズ 16 枚の撮りおろしの近代化遺産写真と 2 枚の A1 説明パネルを加美町総合交流ターミナル企画展示室と加美町中新田図書館展示ホールに展示した。この段階では、近代化遺産 14 件を「まちの発展の光景」「教育と自由思想の光景」「利水・治水の光景」というテーマに割り振り展示を行った。(図 6 参照)

3.2 アンケート調査の概要

3.2.1 アンケートの実施と結果

中新田図書館展示期間中に図書館祭というイベントがあり、町民参加による文化的な催し物が行われた。この機会を捉えて、展示ホール来場者に対して近代化遺産に関する意識アンケート調査を実施した。回収票数は 13 だった。

3.2.2 回答者の属性

回答者の居住地は、9 名が町内中新田地区、1 名が町内宮崎地区、3 名が町外だった。年齢は概ね 40 代以上だった。

表-5 アンケート集計表

設問	選択枝	集計	
		票数	母数
Q1: 「近代化遺産」という言葉を知っていましたか? (SA)	1. 知っていた	2	12
	2. 聞いたことがある	3	
	3. 知らなかった	7	
Q2: 15 の近代化遺産の内、どのくらい知っていましたか? (SA)	1. 概ね全部	3	13
	2. 約半分	7	
	3. 少し	3	
	4. 全く知らない	0	
Q3: 加美町の近代化遺産写真から感じるものは? (MA)	1. 加美町の近代史	8	14
	2. 旧町の歴史	3	
	3. 産業発展した頃	1	
	4. 教育普及した頃	0	
	5. 治水、利水、耕地整備	1	
	6. その他	1	
Q4: 近代化遺産として大切にしたい近代化遺産は? (MA)	1. 田中酒造店	8	45
	2. 中勇酒造店	2	
	3. 山和酒造店	3	
	4. 鈴木醤油店	4	
	5. シルバー人材センター	0	
	6. 農協小野田支店倉庫	0	
	7. 中新田交流センター	6	
	8. 宮崎小学校講堂	4	
	9. 寒風沢集会場	5	
	10. 中新田ハリスト正教会	4	
	11. 門沢発電所開渠水路	3	
	12. 門沢発電所水圧管路	0	
	13. 門沢発電所水道橋	1	
	14. 門沢発電所隧道のアーチ	5	
	15. 別所砂防堰堤	0	
Q5: 上記の内、町のシンボルとして大切にしたい近代化遺産は? (MA)	1. 田中酒造店	11	40
	2. 中勇酒造店	4	
	3. 山和酒造店	1	
	4. 鈴木醤油店	2	
	5. シルバー人材センター	0	
	6. 農協小野田支店倉庫	0	
	7. 中新田交流センター	9	
	8. 宮崎小学校講堂	2	
	9. 寒風沢集会場	1	
	10. 中新田ハリスト正教会	3	
	11. 門沢発電所開渠水路	1	
	12. 門沢発電所水圧管路	0	
	13. 門沢発電所水道橋	2	
	14. 門沢発電所隧道のアーチ	3	
	15. 別所砂防堰堤	1	
Q6: 上記の内、町のシンボルとして大切にしたい近代化遺産は? (MA)	1. 広報で周知する	9	14
	2. 遺産を守る	0	
	3. まちづくりとの連携	5	
	4. その他	0	
Q7: 写真展の印象についてあてはまるものは? (SA)	1. 誇れる遺産に興味を持った	11	13
	2. 知っていることの復習だった	2	
	3. 興味がわからない	0	
	4. その他	0	

3.3 アンケート調査結果

3.3.1 近代化遺産の認知度（択一回答）

設問1「近代化遺産という言葉を知っていましたか?」に対して、6割が知らない、2.5割が聞いたことがある、1.5割が知っている、を選択した。

設問2「展示された近代化遺産写真の内、どのくらい知っていましたか?」に対して、5割強が半分ぐらい、

2.5割強が概ね全部、残りの2.5割が少し、を選択した。

3.3.2 近代化遺産写真に対する印象（複数回答）

設問3「加美町の近代化遺産写真から感じるものは?」に対して、6割強が加美町の近代史、2割強が旧町の歴史を選択した。

3.3.3 大切にしたい近代化遺産（複数回答）

設問4「大切にしたい近代化遺産は?」に対して、8割が田中酒造店、6割が中新田交流センター（旧鳴子小学校）、5割が寒風沢集会場（旧宮崎尋常小学校寒風沢分教場）、同様に5割が門沢発電所水路の隧道アーチ、4割が鈴木醤油店、同様に4割が中新田ハリスト正教会を選択した。

設問5「特に町のシンボルとして大切にしたい近代化遺産は?」に対して、9割が田中酒造店、7.5割が中新田交流センター（旧鳴子小学校）、3割強が中勇酒造店を選択した。

3.3.4 近代化遺産に対して必要と思う取り組み（複数回答）

設問6「あなたの考えにあてはまるものは?」に対して、7割が広報で周知する、4割がまちづくりとの連携を選択した。

3.3.4 写真展の評価

設問7「写真展の印象についてあてはまるものは?」に対して、8.5割が誇れる近代化遺産に興味を持った、1.5割が知っていることの復習を選択した。

3.3.5 近代化遺産に関する自由意見

以下、自由意見を抜粋する。

地元で遺産を守る組織が必要。 / それほど古くない身近な近代化遺産に興味を持った。 / 埋もれているものがあるのでは。 / 知らないところを改めて知った。 / 町の多くの人に認識させる必要がある。 / 無くなっていくのも当然と思った。 / ガイドブックを作るとよい。

3.4 小 括

アンケート調査自体は票数が少なく定量的な分析はできない。それでも選択の偏りなどの傾向から以下の

ような住民と近代化遺産の関係が見えてくる。

① 設問 1 と設問 6 の回答から「近代化遺産」という概念が住民にあまり理解されていないことが判る。このことは、自由回答の「知らないことを改めて知った」「町の多くの人に認識させる必要がある」「無くなっていくのも当然と思った」「ガイドブックをつくるとよい」のコメントと関係している。

② 設問 3 の回答は、「近代化遺産」が地域の近代史イメージを喚起させる媒体となる可能性を示している。

③ 設問 4 と設問 5 の回答から、田中酒造店と中新田交流センター（旧鳴瀬小学校）が高い認知度を持ったシンボルであることが理解できる。

④ 設問 6 の回答や自由回答の「地元で遺産を守る組織が必要」から組織的な取り組みが必要と考える住民がいることが判る。

⑤ 設問 7 の回答や自由回答の「それほど古くない身近な近代化遺産に興味を持った」「知らないところを改めて知った」から、写真展が来場者に一定の評価を受けたことが判る。

4 近代化遺産に関係づけ可能な史実整理

4.1 史実抽出の目的と方法

次に地域の近代化遺産の意味を住民に説明（Interpretation）することを想定して、地域の近代化の特徴と近代化遺産が生まれた背景を整理する。具体的には中新田町史等をテキストとして、交通網整備、学校教育の普及、中新田の経済発展、電気事業の勃興についてまとめる。

4.2 史実の概要

4.2.1 加美町域近代化を促進した交通網整備

①中新田は鳴瀬川に田川、長谷川、保野川、花川が合流する扇状地にあり、古くから物資の集散地の機能があった。仙台藩領への物資の流通経路として、海運で江戸、上方に通じる酒田港～最上川水運～奥羽山脈峠越え～藩領各地というルートが有力だった。これは複数のルートから構成されていたが、そのルートの仙台

藩側の起点の一つが中新田だった。

②明治 15 年に関山新道（国道 48 号）開削工事が竣工し宮城、山形間のメインルートとなる。明治 26 年によりやく、中羽前街道（国道 347 号）開削工事が竣工し、中新田の拠点性が回復する。

③明治 24 年には東北本線の東京～青森間が全通する。大正 2 年に陸羽東線の小牛田～岩出山間が開通し中新田停車場（現在の西古川駅）が開設される。

④大正 11 年に仙台～吉岡間の軌道路線幅 76cm の仙台鉄道が開通する。大正 14 年には中新田町岡町に加美中新田駅が開設し、この軽便鉄道で陸羽東線中新田駅と連絡できるようになった。昭和 4 年には仙台市通町から中新田駅が全通する。戦後、バス路線整備が進む中、台風による鉄橋破壊被害などにより仙台～加美中新田間が廃止される。昭和 35 年には残された区間も廃止され自動車輸送の時代に入っていく。

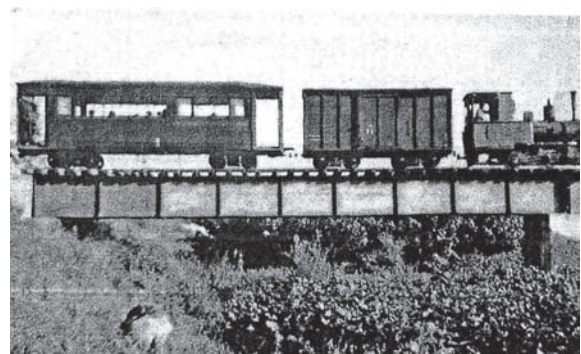


図-4 仙台鉄道（出典：文献 3 口絵頁）

4.2.2 学校教育の普及

①1872 年（明治 5）に学制公布がなされ、近代学校制度が始まる。1873 年（明治 6 年）に中新田村で中新田小学校が設立し、四日市場村では積雲寺内で四日市小学校（鳴瀬小学校の前身）が設立する。

②1873 年に、宮崎村でも西光寺内で宮崎小学校が設立し、1882 年（明治 15）には寒風沢に支校を開設する。宮崎尋常高等小学校時代の 1938 年（昭和 13）に現講堂が竣工する。

4.2.3 明治の大火

①中新田市街地では 1871 年（明治 4）、1874 年（明治

7)、1876年(明治9)、1877年(明治10)、1902年(明治35)にそれぞれ大火がおこった。特に1902年の大火は全793戸の内462戸を焼けつくすものだった。

②その後、道路が一部拡張され、これが中新田の現在の街並みの基礎となっている(図5参照)。基本的に、中新田市街地で残存する近代化遺産のほとんどが1902年以降に建設されたものだ。



図-5 大正期の中新田市街地(出典:文献3 口絵頁)

4.2.4 中新田の酒造業

①中新田町では大崎耕土でとれる良質な米と船形山の伏流水を生かして、藩政のころから酒造りがさかんだった。1871年明治4年の太政官布告の酒造業の解放後、明治6年時点で8軒の造り酒屋があった。

②1919年には東北酒造(株)創設され、販路を6県におよんだ。また、1920年代には各酒造家が生産高を拡大させ、酒造業は発展した。1930年の昭和不況以降は各社とも経営困難になり、3社が休業に追い込まれた。

③現在、中新田市街地内で1789年(寛政元年)創業の田中酒造店、(明治29年)創業の山和酒造店、(明治39年)創業の中勇酒造店が酒造業を営んでいる。中でも田中酒造店を経営する田中林兵衛家は、明治から大正期にかけて酒造業のほか、小作地経営、太物・古着販売、醤油製造業、貸金業を営み、加えて2期に渡り町会議員を務める経済人だった。アンケート調査の「特に町のシンボルとして大切にしたい近代化遺産は?」に対して、9割の回答者が田中酒造店(図5左から4棟目の建物)をあげた根拠はこうしたことも関係があると考えられる。

4.2.5 電気事業の勃興

①明治44年に政府は電気事業法を制定し電気事業の育成を開始する。中新田町では第一次大戦景気に沸く1914年(大正3)に鳴瀬川水力発電(株)が設立し、1919年(大正8)に加美水電(株)が設立する。

②電灯需要は明治末から増大し、1917年(大正6年)には工業原動力においても、電力が蒸気力を上回った。

③鳴瀬川水力発電(株)は、大正8年より門沢発電所で発電を開始している。

4.3 小 括

①加美町は、交通の近代化の波を強く受けた地域である。第一次大戦後の全国的な好景気の中でも発展したが、その背景には交通網の整備と交通手段の変化の後押しがあった。

②この地域では、戦災の被害を受けていないので昭和初期の学校建築が残存している。

③1902年(明治35)の大火は市街地の過半を焼き尽くすものだったため、中心市街地においては、それ以前の建物はあまり残っていない。また、この大火後の動きが現在の中新田中心市街地の構造をつくっている。

④現在も中心市街地内に醸造所が3件あり、何れも明治大正期の蔵造り建築を良い状態で保全している。また、大正期の発展の史実がある。

⑤世界的に1920年代前後に蒸気から電気へのエネルギーの近代化が進むが、小さな加美町域でもその影響がみられる。この流れの中で建設された門沢発電所関連の近代化遺産は公開には不向きなものもあるが、興味深い遺産である。

5. 今後の課題

5-1 課題の整理方法

ここでは、プロジェクト・イメージを生み出すために「物的調査の小括」「啓発と市民意識の小括」「史実整理の小括」で出されたアウトプットを横並びに捉え、「デザイン・ブランニングの課題」「住民・関係者の学習・交流の課題」「情報発信の課題」に再整理する。

5-2 プランニングとデザインの課題

- ①維持保全工事における信正性の確保(2-3)
- ②地域近代化ストーリーを伝える媒体としての近代化遺産の在り方の研究(3-2)
- ③認知度が高くシンボル性が備わった田中酒造店や中新田交流センター等の活用法検討(3-3)

5-3 住民の学習と交流の課題

- ①学習機会の確保 / 写真展実施(3-1,3-5)
- ②物件情報を吸い上げて共有する仕組み(2-1)
- ③取り壊しリスク軽減に必要な地元連携組織(2-2,2-4)

5-4 情報発信の課題

- ①見せることと保安が対立する場合の方策検討（サインシステム）(2-5)
- ②ガイドブック（マップ）製作/ウェブサイト構築(3-1)
- ・交通の近代化(4-1)
- ・学校教育の普及(4-2)

- ・1902 年大火と復興(4-3)
- ・大正期の中新田の発展と醸造所(4-4)
- ・電力事業と門沢発電所(4-5)

参考文献リスト

- 1) 小野田町役場:小野田町史, 2003
- 2) 加美町教育委員会:わたしたちの加美町, 2007
- 3) 中新田町:中新田町史 下巻, 1999
- 4) 中新田町:中新田の歴史 普及版, 1995
- 5) 中新田町商工会:創立 35 周年記念史, 1996
- 6) 永松栄:IBA エムシャーパークの地域再生, 水曜社, 2006
- 7) 宮城県加美郡宮崎町:宮崎町史, 1973
- 8) 宮城県教育委員会:宮城県近代化遺産総合調査報告書, 2002



加美町総合交流ターミナル企画展示室 tel.0229-67-5211
10月23日～27日 9:30～17:00 (10月26日は休館)

加美町中新田図書館展示ホール tel.0229-63-6100
10月29日～11月5日 平日は10:00～18:00、土・日・祝日は9:00～17:00 (11月2日、11月4日は休館)

11月1日(日)の「図書館まつり」にあわせて、12:00～15:00の間、主催者が展示案内をしたり、文化財やまちづくりなどの質問にお答えいたします。

実施/宮城大学事業構想学部地域デザイン研究室
調査協力/東北歴史博物館
展示協力/加美町教育委員会社会教育課、加美町中新田図書館
実行財源/公立大学法人宮城大学一般研究費

永松 栄 プロフィール nagamatsu@myu.ac.jp

1956年生まれ、宮城大学事業構想学部教授。早稲田大学芸術学校講師、技術士(建設部門)、一級建築士、専門は都市計画、まちづくり、現地取材・撮影による著書:「国産 都市と建築の近代」(学芸出版)、「IBAエムシャーパークの地域再生」(水曜社)、「ドイツ中世の都市造形」(創想社)。

加美町の近代化遺産

加美町の近代化遺産写真展の解説

平成 21 年 10 月 永松 栄

はじめに

かつて日本の地方のまちは固有の風景を持っています。若い頃わたしは、1年間ほどドイツの大学で風景を生かしたまちづくりに携わったことがあります。住民が愛着を感じられるように、地域の風景を重視してまちづくりを行います。そこでは古い建造物がとくに大切にされていました。

東京で20年余まちづくりの仕事を経験した中で、しだいに、日本ではドイツのような風景を生かしたまちづくりは無理だと考えるようになっていました。そんな中、宮城県に移り住んだのは平成19年春のことです。

平野、中山間地、山地と変化する大地に森林と農地が展開し、山地から海に向かって川が流れ、交通の要所になりつつある。そんな宮城県の風土を見て、風景を生かしたまちづくりがこの地では可能だと感じました。こうした思いから、近代化遺産と呼ばれる明治維新から第二次世界大戦前後までに建設された建造物を訪ね、状況と状態を確認し写真に記録する調査を行っています。

ドイツのまちづくりに関心した時、風景自体ももちろん大事だが、風景に対する共通の住民の記憶や思いも同様に大事だということを教えられました。今回の近代化遺産写真展は、現地調査の結果を使って住民の方々に地域の歴史と文化景観を再確認してもらうことを目的に開催するものです。

加美町の近代化遺産のある風景

宮城県の調査報告書(平成14年3月)によると、中新田町12件、小野田町5件、宮崎町2件が記されています。近代化遺産は一般に産業関係、交通・通信関係、土木関係、その他と分類されますが、ここでは加美町らしい分類タイトルをつけてみました。

1. まちの発展の光景(写真①～⑥)
- ①田中酒造店(明治30年代建設)
- ②中興酒造店(明治30年代から大正期にかけて建設)
- ③山和酒造店(大正期から昭和20年代にかけて建設)
- ④鈴木醤油店(昭和初期の建設)
- ⑤シルバー人材センター(昭和25年竣工)
- ⑥農協小野田支店倉庫(昭和8年竣工)

近代農業による生産性向上などを背景に、中新田の中心地区では明治期に発展があり、醸造所などが新たに建設されています。また、戦前昭和期に建てられた店舗や医院建築も見られます。醸造所は、県の調査報告書には

記されていませんが、概ね明治時代から大正時代にかけて建設されているので追加しています。現役の醸造所などは地区の個性と活力を感じさせます。また、小野田の中心地区には、昭和初期に建設された石造の農協倉庫があり今も使われています。

2. 教育と自由思想の光景(写真⑦～⑩)

- ⑦中新田交流センター(昭和8年竣工)
- ⑧宮崎小学校講堂(昭和13年竣工)
- ⑨寒風沢集会所(昭和13年竣工)
- ⑩中新田ハリスト正教会(昭和18年竣工)

近代化をもたらした国民教育と自由思想を象徴させるものには、戦前昭和期の木造小学校とキリスト教会があります。鳴瀬には、旧鳴瀬小学校があります。小学校自体は昭和63年に新たな敷地に新築され、残された旧校舎が改修工事をうけ中新田交流センターに生まれ変わっています。宮崎小学校の講堂は昭和10年代の建設です。寒風沢の集会所は、宮崎尋常高等小学校寒風沢分校として建設されたものです。中新田のハリスト正教会もこの時代に建設されています。

3. 利水・治水の光景(写真⑪～⑬)

- ⑪門沢発電所開渠水路(大正5年竣工)
- ⑫門沢発電所水圧管路(管路自体は交換されている)
- ⑬門沢発電所水道橋(大正5年竣工)
- ⑭門沢発電所開渠水路のアーチ(大正5年竣工)
- ⑮別所砂防堰堤(昭和32年竣工)
- ⑯別所砂防堰堤

近代農業開発の前には、土木施設の整備がありました。一つは安定した農業用水の供給のための用水路を建設すること。もう一つは、農地や集落に対する水害を低減するために河川、河岸を改修することです。農業用水の確保に関して河川の上流部から取水して人為的に造った水路を介して平野部で利用します。その水路の途中に適当な落差を確保できる地点があれば、そこで落差水力発電が可能となります。東北電力の門沢発電所と開渠水路などは、大正6年の1号発電機運転開始前に建設されました。これらの動きは、欧米先進国で豊かな生活の実現を目的に電源開発が始まった時代と重なります。ここで発電された電力は近隣町村に配電されたということで、今という地産地消エネルギーが営まれていました。水害や土砂災害の軽減ということでは別所の砂防堰堤が、上多田川への土砂流出防止などを目的に昭和32年に竣工しています。

図-6 写真展のチラシ

表-5 加美町近代化遺産リスト（調査対象外物件も含む）

No.	分類		名称	竣工時期	当初の構造、用途、特徴	存在確認	利用目的	再生工事の影響	ランドマーク性	現状に関する特記事項
27-001	産業	農業	上川原堰	1875 (M4)						
27-002	産業	林業	旧診療所(旧中新田営林署)	1950 (S25)	シネバー人材センター木/ 1	○	○	○	◎	屋根裏部屋があるが、現在は使っていない。
追加 01	産業	醸造業	田中酒造店	1897 (M30)		○	◎	○	◎	
追加 02	産業	醸造業	中勇酒造店	1906-1915 (M39-T4)		○	◎	○	◎	
追加 03	産業	醸造業	山和酒造店	1916-1952 (T5-S27)		○	◎	○	◎	
27-003	産業	商業・サービス	旧料理屋	1924 (T13)		×				
追加 04	産業	商業・サービス	鈴木醤油店(旧赤松商店)	1920 (T10) 以後		○	◎	○	◎	
追加 05	産業	造船業・工業	鈴勘商店工場	1900 (明治35) 以後		○	◎	○	◎	
27-004	交通	道路	鹿島橋	1938 (S13)		×				
27-005	土木	河川・河岸	別所砂防堰堤	1957 (S32)	上多田川への土砂流出防止のため s28 着工、玉石コンクリート像で施工。堤高 10m 堤長 121m	○	◎	○	◎	
27-006	その他	教育施設	旧鳴瀬小学校	1933 (S8)	1933 年 (昭和 8) に現交流センターになった校舎竣工	○	○	●	◎	鳴瀬小学校が別敷地に移転し、残った小学校校舎は増築を含む再生工事を受け、宿泊機能を持つ交流センター
27-007	その他	宗教施設	中新田ハリスト正教会	1943 (S18)		○	◎	○	◎	
27-008	その他	医療施設	旧産婦人科医院	1902 (M35)		○	△	○	△	
27-009	その他	医療施設	菅野眼科医院	1930, 1950 (S5, 25)	旧病院表側は s25、裏奥自邸は s5	○	◎	○	△	
27-010	その他	医療施設	米沢歯科医院	1935 (S10)		○	◎	○	△	
27-011	その他	医療施設	旧藤原歯科医院	1950 (S25)	現在の病院の裏側の自宅一角にある旧病院	○	○	○	△	
27-012	その他	住宅等	工藤邸別屋	~1910 (M)	下は日本間、上は洋間。未利用。	○	△	○	△	
28-001	産業	農業	旧小野田村信用販売購買利用組合第一倉庫	1933 (S8)		○	◎	●	◎	店舗と並んで立っている。表からは昭和初期の石造倉庫の面影は見られないが、裏にまわると文化遺産としての
28-002	産業	農業	旧小野田村信用販売購買利用組合第二倉庫	1944 (S8)		?				
28-003	土木	電力・ガス	門沢発電所水路(水路橋)	1966 (T5)	出力 663KW、有効落差 48M、最大使用水量 1.9t/s、加美町三本木町他 1 町 8 ケ村を供給区域とした。t6 鳴瀬川水力電気株式会社が開業時に建設した発電所。管理会社が変遷し、S26 より東北電力。水路は漆沢まで延びる。水路橋は国道 347、成瀬川支流、下宇津野の少し東方め /RC 開腹アーチ /w1.8m, length18.2m。水路延長 3.5km。	○	◎	○	○	県調査で重要遺構として報告された。
28-004	土木	電力・ガス	門沢発電所水槽	1919 (T8)		○	◎	○	△	
28-005	土木	電力・ガス	門沢発電所余水吐	1919 (T8)		○	◎	○	△	
追加 06	土木	電力・ガス	門沢発電所水管路	1919 (T8)		○	◎	○	◎	
29-001	その他	教育施設	旧宮崎尋常高等小学校講堂	1933 (S13)		○	◎	○	◎	近年、大がかりな再生工事が実施され、質の高い講堂として利用できるようになっている。
29-002	その他	教育施設	旧宮崎尋常高等小学校寒風沢分教場	1933 (S13)	m23 分教場として設置 s13 建替え s22 分教場を分校と改称 s26 旭小学校の独立により旭小学校寒風沢分校 s58 廃	○	○	○	◎	小さな集落のコミュニティ拠点として機能している。擁壁や建具等改修済み。
凡例 存在確認欄: ○存在確認 ×滅失確認 ?所在地未確認 利用目的欄: ◎現役利用 ○用途転換利用 △低未利用 再生工事: ○工事跡は従前形状に即した工事 ●付加的要素の多い工事 △目立った工事跡が感じられない工事 ランドマーク性: ◎視認性が高く、形態的特徴があるもの ○希少性が高いが立地条件から視認性が低いもの △物件の機能からランドマーク化が適さないもの										

